

講義名	(対面)教育課程論【教職に関する科目】		
科目区分	教職に関する科目		
担当教員	水田 聖一		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>教職に関する科目(教職課程及び指導法に関する科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) <p>学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるのか、この「何を」に当たる教育内容を、子どもの必要と社会的必要とに基づいて検討し、構造化し、評価するのが教育課程研究の基本課題です。そのような子どもの必要とは何か、社会的必要とは何かを誰が、どのようにして、何を基準として判断し、評価するかは、重要な教育問題であり、社会問題、政治問題でもあります。この講義では、そのような問題を解決するための思考力を身につけられるよう、歴史的観点など様々な視点から教育課程を考察します。</p>			

到達目標			
<p>教育課程の意義と歴史、教育課程編成の原理と方法、21世紀の学校と教育課程の改革について学ぶ。 教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)</p>			

提出課題			
<p>プレゼンテーション用パワーポイント、ノート提出・小レポート(感想・コメント)提出</p>			

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック			
<p>プレゼンテーションの後、コメントと改善点を指導する。</p>			

評価の基準			
<p>定期試験・プレゼンテーション試験(60%)、発表・小レポート(40%)</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>毎回休まずに出席することが大切。欠席の多いものは成績も下がります。この授業では4回以上欠席者は、試験を受けることができません。 A以上の成績を多く取らないと、教育実習に行けません。 テキストを購入しないものは、授業に出ることを禁ず。</p>			

教科書				
.よくわかる教育課程 第2版.	田中耕治	ミネルヴァ書房	2600	9784623082698

プリント資料及び参考文献				
<p>高等学校学習指導要領・同解説 文部科学省ホームページ</p>				

授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. [教育課程の意義] 教育課程(カリキュラム)とは何か、教育課程の意義、学習指導要領 2. [内容選択の基準] 何を重視するか(生活経験、社会の要求、科学、人間性) 3. [教育課程編成原理] 経験主義と系統主義、スコープとシークエンス、分化と統合 4. [発達と教育課程] 人間発達の理論、学習のレディネス、個に応じた指導 5. [教科書] 教科書の在り方と活かし方、教科書検定制度 6. [教育課程と教育環境] 学校建築、教室、学校図書館、教材と教具、学級編成 7. [カリキュラム評価] 学力の評価、授業の評価、アカウンタビリティ 8. [履修スタイル] 必修科目と選択科目、履修手技と修得主義、能力別グルーピング 9. [教科課程] 諸教科のカリキュラムの特徴、教育内容の精選 10. [教科外カリキュラム] 生徒指導、道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動 11. [近年のカリキュラム改革の動向] 環境教育、国際理解、メディア・リテラシー、食育等 12. [方法論] 「学び方」を学ぶ教育課程の編成と実践 13. [教育課程の歴史] 我が国の教育課程の歴史 14. [教育課程の歴史] 我が国の教育課程行政、学習指導要領の変遷 15. [諸外国の教育課程] アメリカのカリキュラム、イギリス、フランス、ドイツ等 				

授業形態(アクティブ・ラーニング)				
ア:	PBL(課題解決型学習)			
イ:	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
ウ:	ディスカッション、ディベート			
エ:	グループワーク			
オ:	プレゼンテーション			
カ:	実習、フィールドワーク			

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>テキストに従って進むので、毎回予習・復習を行うこと。 毎回発表(パワーポイントによるプレゼンテーション)を課すので、内容をしっかりと調べてくること。 特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。</p>				

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				

実務経験の有無及び活用				

備考				
<p>教員の免許状取得のための必修科目</p>				